
Keep the faith

桜華蒼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Keep the faith

【Nコード】

N2704D

【作者名】

桜華蒼

【あらすじ】

ドラマ版に触発されて。短すぎですが、愛はこもってます。哀れやんを想うコナンくん。

(前書き)

すごい新志でしたね！ It's amazing!

拒めたはずなのに、できなかった。いや、しなかった。

彼女が蘭に気付いて体を離さなければ、俺はきつとそのまま抱きしめていただろう。

らしく、ないと思ったが、触れた体は小さく震えていて。

怖いと言えず、その言葉は蘭にのみ放たれた。

でも抱きしめなくてよかったのだ。感情を逆手になんて、ただの卑怯者だ。

博士の車に乗って、珍しく俺の座る後部座席に乗り込んできた灰原

「ごめんなさいね」と小さく呟いた。

瞬時に思い出した俺の顔は朱く染まり

「いや、うん」とよくわからない答えを返す。

「あのね、く……」

俺は、ぐいつと乱暴に灰原の頭を自分の肩に乗せた。

「ちゃんと会えたな。俺達」

彼女は黙ったままで。

「約束なもの」

俺はポンポンと灰原の頭を叩く。

「信じてる」と灰原は言った。今までで1番聞きたくて、一度も聞けなかった台詞。あの一言がどんなに大切だったか、それが出口を見つける自分の動力になったか。

なんて言えば伝わるのだろう。

「はい……」

窓の外に流れる景色が過ぎるのをぼんやり眺めて、ふと見れば、ようやく張り詰めた緊張感から解放されて穏やかな寝息を立てる彼女。

今日は色々あった。

久しぶりに元の身体に戻ったり、宮野志保と初めて言葉を交わしたり。決してひかない灰原に強く言った。でも、灰原はわかってい
るから何も言わない。

逃げるだけじゃない。生きるのも一緒だよな？

今回は傷一つ負わせずに済んだ。

そつと柔らかい髪を梳く。

「無事でよかった」

俺は固く誓う。

「これから守るから」

END

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2704d/>

Keep the faith

2010年10月28日08時44分発行